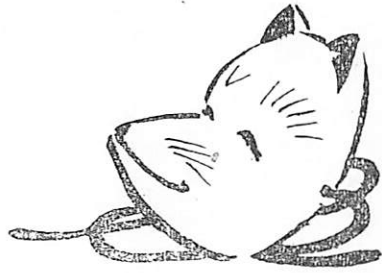




大津畫 心の悪ひ物づくし

「世の中に こゝろの悪ひ物は。奥齒に物がはさかまつたのこ。暗
 で後から ごぼく／＼人の來るのも 心の悪ひ物。何やらふんだのも
 心の悪ひ物。剃毛がちよいこ 落ちたのこ。夜中に むかうで犬が
 鳴いてるのこ。くしやみをしぞこのふたのも 心の悪ひ物。物借り
 て 催促しられたのも 心の悪ひ物。借の有る人に べつたり逢ふ
 て 何にも云はずに だまつて居るのも 心の悪ひ物」



天神山

笑福亭松鶴

エーエ、一席伺ひますは、春先のお話で御座ります、秋春とか申しますが、何う致しましても秋は
 陰氣で具合が悪う御座ります、淋しさに宿を立出ながむれば、いづれも同じ秋の夕暮、とか申しまし
 て、其段、春先は陽氣で、中でも三四月頃となりますと、ぼち／＼、櫻が咲きだしますと、人の心も
 浮れだしまして、松鶴等は、もう家も藏も、借家もいらん、賣つて仕舞へと言ふ様な氣になります
 未だ無いので、能う賣りまへんが、若いお方は、疊に尻が落附て居りまへん、門戸へ出て往來を通る
 人を見て、相場でも入れ能うと言ふ、